

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100499		
法人名	(有)長者の森		
事業所名	グループホーム 長者の森 (ユニット名:こもれび一丁目)		
所在地	静岡県焼津市三ヶ名558-4		
自己評価作成日	平成25年8月16日	評価結果市町村受理日	平成25年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2275100499-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人ひとりに目を向け、いかに『個』のニーズに近づけられるかを念頭に置いています。</p> <p>①自分が、又は大切な家族がここで暮らしたい！と入居者はもちろん長者の森で働くスタッフ自身がそう思える関わり方にこだわっています。例えばお酒を飲まれていた方やタバコを吸われていた方も長者の森での生活で続けることが出来ます。さまざまな場面でのご本人の選択肢を優先します。</p> <p>②同一建物内に保育所が併設されているため、園児たちとの触れ合いが常にあります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>焼津市の主要幹線道路近い閑静な住宅地に、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所、保育所と多様なサービスを併設して事業所はあります。保育所との併設は全国的にもめずらしく、昨年度は厚労省の「宅幼老所」の紹介冊子に静岡県で唯一掲載されました。現在の管理者が3年前にリーダー研修の実習でユニットケアの先進的な取り組みに触れ、その刺激が事業所の活力となっています。例えば、食事も全員揃ってではなく、個々の起床時間や気分に合わせて、ご飯やおかずの量も都度本人に確認しており、自己決定ややりとり能力の維持にも寄与しています。本年度の目標を「チャレンジ」とし、例えばシフトを替えて夜間入浴の希望をとる取り組みなど意欲的にこなされていて、若い活力に溢れた事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションで管理者が会社の理念をたっぷり時間をかけ伝えていきます。入社後も教育係のスタッフが1年間かけ指導し、理念や会社が求める職員像を伝えていきます。	開設当初は各サービスを統括した法人理念のみでしたが、3年前に事業所毎に職員で話し合っグループホーム独自の理念を新たにしています。掲示し、またミーティングでも唱和し、職員の意識継続に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を出す時は、一緒に入居者様と隣の家に届けにいきます。二ヶ月に一度の運営推進会議では、意見交換をしさまざまな情報を共有しています。	事業所の土地はもともと親族のもので、地域の心象は快いものでしたが、昨年度自治会に加入でき、認知症サポーター養成講座の案内を回覧してもらい、地域住民の参加も得て総勢70名の催しものとなりました。	今後は、地域の防災訓練や清掃、祭りなどへの参加などから、さらなる関係づくりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、施設見学に対応しています。グループホーム内を実際見てもらい普通の暮らしのイメージを持ってもらえます。震災以来、津波対策で建物の屋上を一時避難場所として開放しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催しています。メンバーは、市の福祉課の職員、地域包括の職員、自治会副会長、民生委員、入居者ご家族、入居者様(1人)です。施設の近況報告や取り組みなどを伝え、意見交換を行っております。	市職員、地域包括支援センター職員、自治会副会長、家族などを参加者として隔月開催されています。開設から9年目を迎え、運営推進会議でのなじみの関係から自治会の加入も叶い、会議が事業所の運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことや分からないことを焼津市長寿福祉課の担当の方に電話連絡し、助言を頂いています。	運営推進会議の案内、議事録は管理者が直接窓口には管理が学びを意図として、毎回異なる職員を連れだって参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内に身体拘束廃止推進委員会があります。委員会が主体となり社内研修を開催します。施設内の事例発表や身体拘束にあたる可能性の行為やその前兆などを具体的に発信し、より深い知識や意識に結び付けております。	外部研修に年40本以上参加するなかには本件に係る研修もあり、またそれに呼応して必ず内部研修でもおこなっており、繰り返し取り組みを通して職員の意識を高めています。山野医療専門学校先生と生徒と一緒にあった転倒予防の体操など、予防にも努めています。	エレベーターのロックは管理者も安全との狭間で気になっていて、出たい様子の利用者には職員が話を聴いたり、付添って出るように努めてるとのことです。今後も職員間の話し合いのテーマに乗せるなど、意識継続に取り組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修に多く参加し学ぶ機会がある。職員間でその必要性を教えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけ施設の概要や内容をお伝えしています。十分に納得された上で契約を交わしています。解約時にも、その入居者様やご家族様の置かれている状況を配慮しつつ円滑に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の時の意見交換やご意見箱等を利用して要望などを汲み取ります。	年2回の家族会では事業所の方針として「なんでも言って欲しい」ことを伝えています。また昨年度から家族が泊まれるようにしており、お盆休みなどを利用して遠方からの利用もあります。事業所のたよりを発行し、面会の少ない家族に日頃の様子を伝える取組みもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見交換をしています。意見が出にくいこともあるので、職員用意見箱を設置し、無記名での質問を受け付けています。委員会活動でも活発な意見交換がされています。	ユニット費と称する職員権限の予算を設けていて、職員が自らのアイデアで環境づくりができるようにしています。評価シートに基づく管理者及び役員との個人面談もあります。利用者の誕生日会のケーキは、職員発案で始まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的にはノー残業です。経営者と、年度末には職員一人ひとりと個人面談をし、今年度特に力を入れて業務で実践したことを個々に話してもらいます。賞与とは別に特別手当を設け、モチベーションアップに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行い、新しい知識や技術の再確認を行っています。現場でも新人職員には、中堅職員が一年を掛けて細かく指導をし、ケアの統一を図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に一度開催される市内グループホーム連絡会を通してさまざまなテーマから情報交換をしています。いい所は取り入れたり参考にしたりと活発な意見が交わされています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはアセスメントをし会話から本人の気持ちを受け止め、行動パターンの観察からニーズを汲み取っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対する要望には積極的に傾聴し、本人の様子について報告を密にすることで信頼関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の内容から「今必要なことは何か？」を見極め、家族と共有することで安心できる環境作りを努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行うなど共同生活を送る一員として、入居者、職員共にお互いの立場を位置付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が必要な場合は職員からも相談し、本人の思いを実現する手段を一緒に考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば外出や外泊はもちろん、居室での家族の宿泊も対応しています。	近所に住む同級生の誘いから同窓会に参加したり、映画の好きな利用者が家族と出かけるなどしています。また、在宅の頃の趣味だったゲートボールをプランに位置付け、参加できるよう橋渡しをするなどの支援も成されています。在宅の頃からの好みの乳酸飲料を続けている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きの入居者が多く、入居者様個々の横の繋がりで関係性を保っております。しかし、おせっかいが高じてケンカになる場合は、職員が間に入りトラブルを避ける様になります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居して他の施設に移ったあとも、様子を見に面会に行くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接希望を聞いても言ってもらえない場合が多く、日常会話からヒントを得るようにしています。	誕生日にケーキを用意するなど職員からのアプローチが要望に重なるケースもありますが、本人の言葉や表情から汲み取ることを大切にしています。プランの話し合いには本人にも参加してもらおうようにして、本人本位を貫いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は家族より得られる情報が多いですが、本人しか知らないことも多い為、昔話をなどをして頂きその中から把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は変化が大きく、それによって能力にも差が出る為、メンタル面での落ち込みが減少する様、声掛けには注意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度の担当者会議では、本人、ご家族、看護師、入居者担当職員、計画作成者のメンバー構成で入居者、ご家族様のニーズの確認を行っています。	ユニットリーダーが計画作成を兼務しており、カンファレンスでの担当意見を主とする職員間の話し合いをベースにプランを作成しています。家族との合意を得たプランは、読み上げにより職員全員での共有を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活に変化があれば介護記録に残し、申し送りや申し送りノートで職員間の情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物など外出したいという突然の要望にも、対応できる様に努力しています。同施設内に保育所が併設してあるため、園児たちとの交流もたくさんあり、入居者様の笑顔が見られます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には入居者代表者に参加して頂き、地域の方にも入居者の気持ちを理解して頂ける様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が施設提携医を主治医にしており、毎月の往診の他、電話での相談も随時行っています。	月1回の往診があり、家族は薬を取に行くのみで負担が少ないため、ほとんどが事業所の協力医に変更しています。往診では常勤看護師が日頃の様子を伝えているため、適切な医療が施され安心の環境にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤ではないが、週4~5日看護師の勤務があり、医療面での管理、相談には対応しています。また急変時や夜間のオンコールにも対応している為、ご家族様も安心されております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行ったり、家族などから様子を伺い、状態の把握に努めています。退院後もドクターの指示のもと施設内の生活が継続できるよう連携を密に取っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのマニュアルを作成し対応しています。状態の悪化が見られた時は、早期にご本人、家族と今後のケアや方針について話し合いをしています。	本年度は一例の実績があり、徳ひのカンファレンスもおこないました。「その人の最期まで寄り添う」ことを使命とする事業所の考えが実践を通じて浸透しつつあり、看取りへの取組みに前向きな姿勢が生まれつつあります。また、常勤看護師のオンコール対応や協力医の支援も見込めることなど条件も整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の場に立ち会える機会が、全員の職員にあるわけではないので、社内研修時に急変時の対応や勉強会を開いています。どの職員もいつ何時その場面に立ち会っても焦らず実践できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っていますが、夜間の訓練は現状では行っていません。地域自治会と合同の避難訓練を行い、定期的にシミュレーションをしています。	年2回の防災訓練をおこなうほか、防災委員が中心となりテーマ設定した防災研修、AED研修など具体的な取組みをしています。業者に加わってもらった例はありますが、地域からの参加はありません。	建物の屋上が地域の一時避難場所に指定されていることを活かし、地域住民との連携を視野にいれた取組みを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや羞恥心に配慮した声掛けや誘導を心掛けてケアに取り組んでいます。常に自分に置き換え、自分がこんな施設なら入りたいと思えるような雰囲気作りを意識しています。	部屋の入退室のノックを徹底するなど、基本といわれることを大切にしています。消耗品や汚物をエコバックで運び、羞恥心に配慮する取組みもあります。新入社員は外部の接遇研修に参加し、また年1回内部研修でもマナー・接遇を学習する機会を設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に応じて二者択一にしてみたり意思決定ができない方には、表情から汲み取るなど個人のペースに合わせて支援を行っています。毎食の食事の取り分けは、本人にどのくらいの分量がいいのか直接聞き、盛り付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者にとって押し付けや強制にならない様に本人の意向を聞きながら支援しています。アセスメントの際には、以前の家で生活をここでも継続してもらえるように十分に説明しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びが自分でできる方は自分で選んで頂き、重ね着などが目立つ場合は職員のアドバイスで支援していきます。寝グセがついている方は、洗面所でご自分で直しています。寝グセに気付かない方も職員がそっと直しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房より副菜が皿で上がってくる為、本人の希望の量を聞きながら盛り付けをしています。自分で盛り付けられる入居者には自分で取り分けて頂きます。ご飯も自分の食べたい分量で本人に聞きながら盛り付けております。	食事も全員揃ってではなく、個々の起床時間や気分に合わせていて、ご飯やおかずの量も都度本人に確認しており、自己決定ややりとり能力の維持にも寄与しています。年3回のバイキングと月2回のセレクトメニューもあり、食事に選ぶ楽しみを付加させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスを考えて献立が立てられています。各人の一日の食事量や水分量を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状態に合わせた口腔ケアを行っています。義歯は週2回就寝時に除菌をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを利用してそれぞれの排泄パターンを把握しており、失敗を未然に防げる様にさり気ない誘導を行っています。	排泄チェック表に個人のパターンを落とし込み、めやすをもって関わるようにしています。トイレでおこなうことにより、家族の経済負担の軽減にもつながっています。夜間は本人の要望に合わせて、安眠を優先する場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し毎日のリハビリ運動を工夫しています。腸伝動の働きが低下し便秘気味の入居者様は、主治医と相談し便秘薬でコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	試験的に夕食後に希望する入居者のみ入浴を行っていましたが、待ちきれずに寝てしまいました。現在では体調を見ながら週2回入浴する様にしています。	本人希望に添った入浴時間に対応できませんが、大半が職員の声掛けに応じていて、自発的な意見は今のところありません。また、苦手という人にも週2回をめやすに清潔保持に努めています。本年度は、シフトを替えて夜間入浴の希望をとることもチャレンジしました。	入浴剤の提案も職員からあったのですが、さらに「楽しい時間」になるよう職員間の話し合いにのぼることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの健康状態や睡眠状況を把握し、日中でも休養できる様に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方薬のファイルを作成し職員それぞれが確認できるようにしています。変更や追加があった場合は申し送りノートに記載し情報の共有や経過観察・服薬確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることや好きなことを把握し、出来る限り好きなことをする時間を多くして、楽しく過ごして頂ける様にしています。裁縫が得意な方は、縫物を。習字の得意な方は、習字教室を。園芸が好きな方は、栽培をして楽しみを見出しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設の周りを散歩しています。お買い物に行ったり、外食や小旅行を計画し家族と一緒に外出する機会を作っています。	月1回程度、菓子工場の見学や回転寿司などに出席しています。響ファミリー(大衆演劇一座)に招待してもらえるなどの法人のスケールメリットが反映されたイベントもあります。外気浴には屋上も利用でき、ゴミだしや回覧板を届けるなど、生活のなかでの外出を支援しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額ではありませんが、自己管理されている入居者もおります。施設に移動パン屋さんが来た時や外の自販機で飲み物を自分で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けることができます。家族より携帯電話を預かっている入居者もいて希望時に自分で自宅へ電話もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやソファの位置を工夫し、居心地の良い空間作りをしています。季節を感じられるような掲示物や生花を飾っています。家庭的な雰囲気のある物を置き、施設っぽくならないように心掛けております。	本年度は期間を定めて各エリアのしつらえを温かみのあるものに模様替えすることに取組んでいます。そのため、畳の縁台や小さな座布団、一輪挿しなどが置かれ、馴染みのある空間となっています。また、こあがりの踏み台や手すりなど、日曜大工で工夫を凝らして環境づくりに尽くしていることがみてとれました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は自室に戻ることが多いです。共用スペースではテレビやDVDをみて自由に過ごして頂ける様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や寝具、思い出の品、アルバムなどを持って来て頂き、居心地の良く居室で過ごせる様にしています。馴染みのダンス、テレビ、仏壇、ソファなど居室に入る物なら何でも持ち込みが可能です。	洗面台、エアコン、ベッドが備え付けられています。ドアを開けておきたい利用者の部屋には家族の用意したお洒落な暖簾があったり、ソファやテレビのほかにも電子フォトフレームがあるなど、それぞれ趣のある暮らしがあることが覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは自分でできる様にさりげなく支援しています。車椅子で自走する入居者の場合は、移乗する時にブレーキが掛っているかなど安全には十分注意を払っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100499		
法人名	(有)長者の森		
事業所名	グループホーム 長者の森 (ユニット名:こもれび二丁目)		
所在地	静岡県焼津市三ヶ名558-4		
自己評価作成日	平成25年8月16日	評価結果市町村受理日	平成25年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kami=true&jiyosyoCd=2275100499-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりに目を向け、いかに『個』のニーズに近づけられるかを念頭に置いています。

①自分が、又は大切な家族がここで暮らしたい！と入居者はもちろん長者の森で働くスタッフ自身がそう思える関わり方にこだわっています。例えばお酒を飲まれていた方やタバコを吸われていた方も長者の森での生活で続けることが出来ます。さまざまな場面でのご本人の選択肢を優先します。

②同一建物内に保育所が併設されているため、園児たちとの触れ合いが常にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

焼津市の主要幹線道路近い閑静な住宅地に、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所、保育所と多様なサービスを併設して事業所はあります。保育所との併設は全国的にもめずらしく、昨年度は厚労省の「宅幼老所」の紹介冊子に静岡県で唯一掲載されました。現在の管理者が3年前にリーダー研修の実習でユニットケアの先進的な取り組みに触れ、その刺激が事業所の活力となっています。例えば、食事も全員揃ってではなく、個々の起床時間や気分に合わせて、ご飯やおかずの量も都度本人に確認しており、自己決定ややりとり能力の維持にも寄与しています。本年度の目標を「チャレンジ、とし、例えばシフトを替えて夜間入浴の希望をとる取り組みなど意欲的にこなっていて、若い活力に溢れた事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションで管理者が会社の理念をたっぷり時間をかけ伝えていきます。入社後も教育係のスタッフが1年間かけ指導し、理念や会社が求める職員像を伝えていきます。	開設当初は各サービスを統括した法人理念のみでしたが、3年前に事業所毎に職員で話し合っグループホーム独自の理念を新たにしています。掲示し、またミーティングでも唱和し、職員の意識継続に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を出す時は、一緒に入居者様と隣の家に届けにいきます。二ヶ月に一度の運営推進会議では、意見交換をしさまざまな情報を共有しています。	事業所の土地はもともと親族のもので、地域の心象は快いものでしたが、昨年度自治会に加入でき、認知症サポーター養成講座の案内を回覧してもらい、地域住民の参加も得て総勢70名の催しものとなりました。	今後は、地域の防災訓練や清掃、祭りなどへの参加などから、さらなる関係づくりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、施設見学に対応しています。グループホーム内を実際見てもらい普通の暮らしのイメージを持ってもらえます。震災以来、津波対策で建物の屋上を一時避難場所として開放しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催しています。メンバーは、市の福祉課の職員、地域包括の職員、自治会副会長、民生委員、入居者ご家族、入居者様(1人)です。施設の近況報告や取り組みなどを伝え、意見交換を行っております。	市職員、地域包括支援センター職員、自治会副会長、家族などを参加者として隔月開催されています。開設から9年目を迎え、運営推進会議でのなじみの関係から自治会の加入も叶い、会議が事業所の運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことや分からないことを焼津市長寿福祉課の担当の方に電話連絡し、助言を頂いています。	運営推進会議の案内、議事録は管理者が直接窓口へ届けています。市職員からキャラバンメイトの話をもらったり、3ヶ月に1度のグループホーム連絡協議会には管理者が学びを意図として、毎回異なる職員を連れだって参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内に身体拘束廃止推進委員会があります。委員会が主体となり社内研修を開催します。施設内の事例発表や身体拘束にあたる可能性の行為やその前兆などを具体的に発信し、より深い知識や意識に結び付けております。	外部研修に年40本以上参加するなかには本件に係る研修もあり、またそれに呼応して必ず内部研修でもおこなっており、繰り返しの取組みを通して職員の意識を高めています。山野医療専門学校先生と生徒と一緒にあった転倒予防の体操など、予防にも努めています。	エレベーターのロックは管理者も安全との狭間で気になっていて、出たい様子の利用者には職員が話を聞いたたり、付添って出るように努めてるとのことです。今後も職員間の話し合いのテーマに乗せるなど、意識継続に取組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修に多く参加し学ぶ機会がある。職員間でその必要性を教えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけ施設の概要や内容をお伝えしています。十分に納得された上で契約を交わしています。解約時にも、その入居者様やご家族様の置かれている状況を配慮しつつ円滑に行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の時の意見交換やご意見箱等を利用し要望などを汲み取ります。	年2回の家族会では事業所の方針として「なんでも言って欲しい」ことを伝えています。また昨年度から家族が泊まれるようにしており、お盆休みなどを利用して遠方からの利用もあります。事業所のたよりを発行し、面会の少ない家族に日頃の様子を伝える取組みもあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見交換をしています。意見が出にくいこともあるので、職員用意見箱を設置し、無記名での質問を受け付けています。委員会活動でも活発な意見交換がされています。	ユニット費と称する職員権限の予算を設けていて、職員が自らのアイデアで環境づくりができるようにしています。評価シートに基づく管理者及び役員との個人面談もあります。利用者の誕生日会のケーキは、職員発案で始まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的にはノー残業です。経営者と、年度末には職員一人ひとりと個人面談をし、今年度特に力を入れて業務で実践したことを個々に話してもらいます。賞与とは別に特別手当を設け、モチベーションアップに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行い、新しい知識や技術の再確認を行っています。現場でも新人職員には、中堅職員が一年を掛けて細かく指導をし、ケアの統一を図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に一度開催される市内グループホーム連絡会を通してさまざまなテーマから情報交換をしています。いい所は取り入れたり参考にしたりと活発な意見が交わされています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはアセスメントをし会話から本人の気持ちを受け止め、行動パターンの観察からニーズを汲み取っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に対する要望には積極的に傾聴し、本人の様子について報告を密にすることで信頼関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の内容から「今必要なことは何か？」を見極め、家族と共有することで安心できる環境作りを努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行うなど共同生活を送る一員として、入居者、職員共にお互いの立場を位置付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が必要な場合は職員からも相談し、本人の思いを実現する手段を一緒に考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば外出や外泊はもちろん、居室での家族の宿泊も対応しています。	近所に住む同級生の誘いから同窓会に参加したり、映画の好きな利用者が家族と出かけるなどしています。また、在宅の頃の趣味だったゲートボールをプランに位置付け、参加できるよう橋渡しをするなどの支援も成されています。在宅の頃からの好みの乳酸飲料を続けている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きの入居者が多く、入居者様個々の横の繋がりで関係性を保っております。しかし、おせっかいが高じてケンカになる場合は、職員が間に入りトラブルを避ける様になります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居して他の施設に移ったあとも、様子を見に面会に行くこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接希望を聞いても言ってもらえない場合が多く、日常会話からヒントを得るようにしています。	誕生日にケーキを用意するなど職員からのアプローチが要望に重なるケースもありますが、本人の言葉や表情から汲み取ることを大切にしています。プランの話し合いには本人にも参加してもらおうようにして、本人本位を貫いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は家族より得られる情報が多いですが、本人しか知らないことも多い為、昔話をなどをして頂きその中から把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は変化が大きく、それによって能力にも差が出る為、メンタル面での落ち込みが減少する様、声掛けには注意しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度の担当者会議では、本人、ご家族、看護師、入居者担当職員、計画作成者のメンバー構成で入居者、ご家族様のニーズの確認を行っています。	ユニットリーダーが計画作成を兼務しており、カンファレンスでの担当意見を主とする職員間の話し合いをベースにプランを作成しています。家族との合意を得たプランは、読み上げにより職員全員での共有を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活に変化があれば介護記録に残し、申し送りや申し送りノートで職員間の情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物など外出したいという突然の要望にも、対応できる様に努力しています。同施設内に保育所が併設してあるため、園児たちとの交流もたくさんあり、入居者様の笑顔が見られます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には入居者代表者に参加して頂き、地域の方にも入居者の気持ちを理解して頂ける様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が施設提携医を主治医にしており、毎月の往診の他、電話での相談も随時行っています。	月1回の往診があり、家族は薬を取に行くのみで負担が少ないため、ほとんどが事業所の協力医に変更しています。往診では常勤看護師が日頃の様子を伝えているため、適切な医療が施され安心の環境にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤ではないが、週4~5日看護師の勤務があり、医療面での管理、相談には対応しています。また急変時や夜間のオンコールにも対応している為、ご家族様も安心されております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行ったり、家族などから様子を伺い、状態の把握に努めています。退院後もドクターの指示のもと施設内の生活が継続できるよう連携を密に取っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのマニュアルを作成し対応しています。状態の悪化が見られた時は、早期にご本人、家族と今後のケアや方針について話し合いをしています。	本年度は一例の実績があり、徳ひのカンファレンスもおこないました。「その人の最期まで寄り添う」ことを使命とする事業所の考えが実践を通じて浸透しつつあり、看取りへの取組みに前向きな姿勢が生まれつつあります。また、常勤看護師のオンコール対応や協力医の支援も見込めることなど条件も整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の場に立ち会える機会が、全員の職員にあるわけではないので、社内研修時に急変時の対応や勉強会を開いています。どの職員もいつ何時その場面に立ち会っても焦らず実践できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っていますが、夜間の訓練は現状では行っていません。地域自治会と合同の避難訓練を行い、定期的にシミュレーションをしています。	年2回の防災訓練をおこなうほか、防災委員が中心となりテーマ設定した防災研修、AED研修など具体的な取組みをしています。業者に加わってもらった例はありますが、地域からの参加はありません。	建物の屋上が地域の一時避難場所に指定されていることを活かし、地域住民との連携を視野にいれた取組みを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや羞恥心に配慮した声掛けや誘導を心掛けてケアに取り組んでいます。常に自分に置き換え、自分がこんな施設なら入りたいと思えるような雰囲気作りを意識しています。	部屋の入退室のノックを徹底するなど、基本といわれることを大切にしています。消耗品や汚物をエコバックで運び、羞恥心に配慮する取組みもあります。新入社員は外部の接遇研修に参加し、また年1回内部研修でもマナー・接遇を学習する機会を設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に応じて二者択一にしてみたり意思決定ができない方には、表情から汲み取るなど個人のペースに合わせて支援を行っています。毎食の食事の取り分けは、本人にどのくらいの分量がいいのか直接聞き、盛り付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者にとって押し付けや強制にならない様に本人の意向を聞きながら支援しています。アセスメントの際には、以前の家で生活をここでも継続してもらえるように十分に説明しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びが自分でできる方は自分で選んで頂き、重ね着などが目立つ場合は職員のアドバイスで支援していきます。寝グセがついている方は、洗面所でご自分で直しています。寝グセに気付かない方も職員がそっと直しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房より副菜が皿で上がってくる為、本人の希望の量を聞きながら盛り付けをしています。自分で盛り付けられる入居者には自分で取り分けて頂きます。ご飯も自分の食べたい分量で本人に聞きながら盛り付けております。	食事も全員揃ってではなく、個々の起床時間や気分に合わせていて、ご飯やおかずの量も都度本人に確認しており、自己決定ややりとり能力の維持にも寄与しています。年3回のバイキングと月2回のセレクトメニューもあり、食事に選ぶ楽しみを付加させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスを考えて献立が立てられています。各人の一日の食事量や水分量を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後それぞれの状態に合わせた口腔ケアを行っています。義歯は週2回就寝時に除菌をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを利用してそれぞれの排泄パターンを把握しており、失敗を未然に防げる様にさり気ない誘導を行っています。	排泄チェック表に個人のパターンを落とし込み、めやすをもって関わるようにしています。トイレでおこなうことにより、家族の経済負担の軽減にもつながっています。夜間は本人の要望に合わせて、安眠を優先する場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し毎日のリハビリ運動を工夫しています。腸伝動の働きが低下し便秘気味の入居者様は、主治医と相談し便秘薬でコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	試験的に夕食後に希望する入居者のみ入浴を行っていましたが、待ちきれずに寝てしまいました。現在では体調を見ながら週2回入浴する様にしています。	本人希望に添った入浴時間に対応できませんが、大半が職員の声掛けに応じて、自発的な意見は今のところありません。また、苦手という人にも週2回をめやすに清潔保持に努めています。本年度は、シフトを替えて夜間入浴の希望をとることもチャレンジしました。	入浴剤の提案も職員からあったのですが、さらに「楽しい時間」になるよう職員間の話し合いにのぼることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの健康状態や睡眠状況を把握し、日中でも休養できる様に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方薬のファイルを作成し職員それぞれが確認できるようにしています。変更や追加があった場合は申し送りノートに記載し情報の共有や経過観察・服薬確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることや好きなことを把握し、出来る限り好きなことをする時間を多くして、楽しく過ごして頂ける様にしています。裁縫が得意な方は、縫物を。習字の得意な方は、習字教室を。園芸が好きな方は、栽培をして楽しみを見出しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設の周りを散歩しています。お買い物に行ったり、外食や小旅行を計画し家族と一緒に外出する機会を作っています。	月1回程度、菓子工場の見学や回転寿司などに出席しています。響ファミリー(大衆演劇一座)に招待してもらえるなどの法人のスケールメリットが反映されたイベントもあります。外気浴には屋上も利用でき、ゴミだしや回覧板を届けるなど、生活のなかでの外出を支援しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額ではありませんが、自己管理されている入居者もおります。施設に移動パン屋さんが来た時や外の自販機で飲み物を自分で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を掛けることができます。家族より携帯電話を預かっている入居者もいて希望時に自分で自宅へ電話もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやソファの位置を工夫し、居心地の良い空間作りをしています。季節を感じられるような掲示物や生花を飾っています。家庭的な雰囲気のを置き、施設っぽくならないように心掛けております。	本年度は期間を定めて各エリアのしつらえを温かみのあるものに模様替えすることに取組んでいます。そのため、畳の縁台や小さな座布団、一輪挿しなどが置かれ、馴染みのある空間となっています。また、こあがりの踏み台や手すりなど、日曜大工で工夫を凝らして環境づくりに尽くしていることがみてとれました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は自室に戻ることが多いです。共用スペースではテレビやDVDをみて自由に過ごして頂ける様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や寝具、思い出の品、アルバムなどを持ってきて頂き、居心地の良く居室で過ごせる様にしています。馴染みのダンス、テレビ、仏壇、ソファなど居室に入る物なら何でも持ち込みが可能です。	洗面台、エアコン、ベッドが備え付けられています。ドアを開けておきたい利用者の部屋には家族の用意したお洒落な暖簾があったり、ソファやテレビのほかにも電子フォトフレームがあるなど、それぞれ趣のある暮らしがあることが覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは自分でできる様にさりげなく支援しています。車椅子で自走する入居者の場合は、移乗する時にブレーキが掛っているかなど安全には十分注意を払っています。		